

28年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成28年 11月1日～ 28年11月10日

2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
入荷動向	国産材	16.7	8.3	△ 16.7
	外材	△ 12.5	0.0	△ 25.0
在庫動向	国産材	△ 30.0	△ 10.0	10.0
	外材	△ 50.0	△ 12.5	12.5

・国産材ラミナの入荷は11月、12月の増加が、1月は減少。外材は総じて減少傾向

・ラミナの在庫は国産材、外材共11月、12月の減少が、1月は増加。

(2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
国産材	16.7	8.3	0.0
欧州材	16.7	16.7	0.0
その他	0.0	0.0	50.0

・ラミナの購入価格は国産材、外材共に強含みから、1月は横ばいに。その他は11月、12月の横ばいから1月は強含み。

モニターからのコメント

(ラミナ荷動き)

・国産材丸太の不足感あり、仕入れしにくい。何とか量を確保している。仕入れ後、即使用の状態が続きそう。

28年11月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

(3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
生産動向	国産材	41.7	25.0	△ 16.7
	WW集成管柱	0.0	△ 25.0	△ 50.0
	RW集成平角	0.0	△ 16.7	△ 50.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—
出荷動向	国産材	58.3	33.3	△ 8.3
	WW集成管柱	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	RW集成平角	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材集成材の生産は11月、12月の増加が、1月は減少。WW集成管柱及びRW集成平角は11月の横ばいが、12月、1月は減少。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

・国産材集成材の出荷は11月、12月の増加が、1月は横ばい。WW集成管柱及びRW集成平角は11月の横ばいなし減少が、12月、1月は更に減少。米マツ集成平角は3ヵ月連続して横ばい。

(4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
スギ集成管柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
RW集成平角	0.0	0.0	0.0
米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	16.7	0.0	0.0
カラマツ集成平角	△ 50.0	0.0	0.0

・構造用集成材の出荷価格は、米ヒバ土台角がやや強保合であることとカラマツ集成平角の弱含みを除き、全て品目は保合いで推移。

モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

- ・スギ集成材の生産は毎月同量。翌月以降も同等の見込み。カラマツは輸入材の不足感からか問い合わせが増加傾向、フル稼働である。スギは大手ビルダー向けが引き続き好調、カラマツは関東方面を中心に出荷量が増加、11月～12月は好調と見込む。
- ・国産ヒノキ集成材、米ヒバ集成材共に、生産はピークに達している。増加させているが注文に追い付かない。出荷はピークを迎えている。2月以降落着くと予想。

(構造用集成材の出荷価格動向)

- ・スギは大手ビルダー向けが主力であるが、価格は横ばい。カラマツはラミナ価格が高値安定のため基本的に横ばい。アッセンブル対応等、付加価値を付け少しでも単価を押し上げたい。
- ・全般的に受注多いが、単価は上がらず。米ヒバも少し値上げしたものの横ばい。